

四月読みとりおけいこ⑤（中）

名前（

前号でさえずりのことをお話しましたね。今日は、ききなしのお話をしてみましょう。ききなし、というのは、鳥のさえずりの声を人間のことばにあてはめることをいいます。

一番有名なのは、ウグイスです。「ホー、ホケキヨ」とはみなさんも知っていますね。あれには漢字があります。「法、法華経」というのです。仏教ではおしやかさまがとかれた教えを法といいます。法華経というのはお経の一つです。ですから、むかし日本人のほとんどが仏教徒だったところは、ウグイスの存在は今よりありがたいものだったのです。

仏教つながりでは、コノハズクの「仏法僧」（ブツポウソウ）も有名です。仏はおしやかさま、法は教え、僧はおぼろさんのことですね。（はじめ別の鳥の鳴き声だともわれ、別の鳥がブツポウソウと名付けられました。）

メジロは「長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛」と、江戸時代多かった名前にあてはめられました。

「特許許可局」というのは早口言葉の一部分のようですが、ホトトギスのさえずりを表したききなしです。もっとも、ホトトギスはほかに多くのききなしがあつて、よく知られているのは「てっぺんかけたか」（山のてっぺんを走ったか？）ですが、お酒の大好きなお父さんには「一杯つけたか」（お酒のおかんができたか？）と聞きたそうです。また、お寺の小ぞうさんには「ぞうきんかけたか」と聞こえたのだそうです。

こうしてみると、ききなしには、さえずりを聞く人が何を考えているのか、ということが関係していることがわかりますね。音どくサイン↓

① 何の話ですか？

② ききなしとは何ですか？

③ 全部で何種の鳥が出てきますか？

④ ウグイスのさえずりを漢字でうつしましょう？

⑤ コノハズクのさえずりをカタカナでかきましよう。

⑥ メジロのさえずりをカタカナでかきましよう。

⑦ なぜ小ぞうさんにはぞうきんかけたかときこえるのでしょうか。

⑧ ききなしについてどうまとめてあるかをぬきだしてみましょう。

⑨ あっている文に○をつけましよう。

- （ ）ブツポウソウはブツポウソウと名付けた。
- （ ）メジロのききなしは令和の時代に行われた。
- （ ）つめたいさけをのむことをおかん、という。
- （ ）ききなしにはさえずる人が何を考えているのか、ということが関係している。

⑩ 上の文のかんそうを四行にまとめましよう。

できばえは？

